Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-29

神戸大学医学部附属病院遺伝子診療部（学内インフォメーション 各科の課題と専門外来）

松尾, 雅文

(Citation)
神戸大学医学部神緑会学術誌, 17:83-85

(Issue Date)
2001-08

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81007710

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007710

KOBE UNIVERSITY

学内インフォメーション――
（各科の課題と専門外来）

神戸大学医学部附属病院遺伝子診療部

遺伝子診療部長　松　尾　雅　文（47年卒）

神戸大学医学部附属病院に中央診療施設の１つとして，遺伝子診療部が平成11年１月に新たに設置されました．遺伝子診療部は未だ院内措置の施設ですが，こうした中央診療施設の設置は，信州大学に次いで全国２番目のものであります．ヒト遺伝子にかかわるニュースがマスコミをにぎわさない日はない程，ヒトの遺伝子に関する情報が巷にあふれています．最近では，国際共同事業のヒトゲノムプロジェクトの成果によりヒト遺伝子の全塩基配列が明らかになったと大きく報道されました．こうしたことから，一般の人々の遺伝子への関心は急速に高まっています．

また，遺伝子に関連した医学の進歩には目を見張るものがあり，特に病気の診断において遺伝子診断の重要性が日々増してきていることは言うまでもありません．また，遺伝子治療は夢の治療法として大きく期待されており，神戸大学においても遺伝子治療実施の申請が出され夢の実現が迫ってきております．このように遺伝子に関連した知識・技術が日常診療において欠くことのできない新しい医療の領域となってきています．

こうした状況で本遺伝子診療部が設置されたことは，神戸大学病院が次世代の医療をになうに相応しい診療体制を整備したといっても過言ではないでしょう．遺伝子診療部では，遺伝相談・遺伝子診断・遺伝子治療の業務を行い，21世紀の医療を視野に置いた先導的・先端的診療を行う予定です．ここでは，遺伝子診療部の活動の内容の１部を紹介します．

１．遺伝相談外来

遺伝子診療部の業務のうち，遺伝相談の外来が本格的に業務を行っています．遺伝子診療部は誕生間もないことで専用の外来スペースがなく，小児科外来と総合診療部外来に間借りして遺伝相談の外来を開いています．

遺伝相談では，相談者の遺伝にまつわる様々な問題についてカウンセリングを主として対応していき，時には問題の種類に応じて医学的にも対応をしていきます．相談者の抱える問題は多様なため，本外来では小児科をはじめ産科・内科・神経内科・精神科・外科・泌尿器科など院内の多くの診療科の医師の応援を得るとともに，薬剤師・臨床検査技師・看護婦など多くの医療関係者の協力も得て，相談に応じています．

患者さんからの相談では，表１のようなことについて相談にのっています．例えば，親子代々３代にわたって少し歩き始める時に困難を感じるといって相談にこられた方がありました．症状も大したものではなく，病院に受診されることもなく普通に生活をしておられました．相談内容から遺伝性の疾患が疑われ，その後確定診断がなされ治療ができることになりました．この例では，遺伝相談外来を受診され大きなメリットがあったと考えられます．

一方，遺伝性がはっきりせず相談に来られても満足な結果を得られない，ただ単に相談者の思い過ごしのようなこともよくあります．



上段中央松尾診療部長，スタッフと患者とともに

遺伝相談では，時には相談内容にはかなり複雑な問題を抱えており，時間をかけて対処しなければなりません．それで，相談はすべて予約制としています．受診の方法は，まず電話で予約をすることで，方法は表２に示しています．現在，初診日は火曜日の午前の週１回のみです．この遺伝子診療部の初診は小児科の外来の部屋（外来棟２階)を使用しておこなっています

２．遺伝子診断

今まで病因がどこにあるのか不明であった疾病でもその責任遺伝子が次々と明らかにされ，多くの遺伝病の診断が遺伝子レベルで確定できるようになりました．遺伝子診断は診断の確定という点で絶対的に近い情報源となるわけで，この結果を覆すことは不可能です．逆に，このことが「発症前診断」という新たな問題を引き起こしてます．遺伝子を調べれば，本人に何の症状もないのに将来発症する病名が下されてしまうというのです．家族性腫瘍では，この発症前診断はがんの早期発見に結びつき，臨床上有益なこととなります．ところが，ハンチントン病などでは診断名が告知だけされ，その後の医学的アプローチがないという場合にはこの「発症前診断」を実施するのが良いのかどうかも問題であります．遺伝子診療部では，こうした相談者には先に紹介しました遺伝相談外来で十分な相談体制をしくとともに，「遺伝子診療部症例検討会」も開催して多くの人の意見を集約した上で，その診断を実施するかということを決めています．

神戸大学医学部および医学部附属病院では遺伝子の異常に基づく多くの病気の遺伝子診断が実施されております．なかでも「進行性筋ジストロフィーの遺伝子診断」は厚生省から当附属病院で実施できる高度先進医療の１つとして認められています．この診断は，本診療部の遺伝子診断分野における重要な業務の１つとなっています．現在多くの疾患の遺伝子診断が各診療科内で行われていますが，今後積極的に高度先進医療として認められるように推進し，診断内容の充実をはかる予定です．

３．遺伝子治療

難病あるいはがんなど現在の医学ではその治療法が確立できない病気に対して夢の治療法と考えられているのが遺伝子治療です．遺伝子治療は未だ本院では実施されていませんが，将来の発展の期待は大きいものです．泌尿器科から前立腺がんに対する遺伝子治療臨床研究の実施について申請が出され，多くの前立腺がんで苦しむ患者さんから熱い期待が寄せられました．また，私たちが発見し「ジストロフィン神戸」として報告したジストロフィン遺伝子の異常例では，遺伝子の異常の解明とその分子病態の解明の結果から，今まで不可能とされたデュシャンヌ型筋ジストロフィーに対する全く新しい観点に立った世界で初めての治療法の確立をもたらそうとしています．今後こうした成果が続々と得られることが大きく期待されています．

４．遺伝子診療部ワークショップ

遺伝子診療部では，中央診療施設の１つであるという機能を発揮するため，各科の遺伝子診療に関する成果を持ち寄り発表する遺伝子診療部ワークショップを適宜開催しています．本ワークショップを実施することにより，これまで各科個別で実施していた研究を多くの科の共同として実施し，神戸大学病院の医療の充実・発展に寄与しようとするものです．

表１．遺伝子診療部ではこんなときに御相談にのります

－自分や家族に，遺伝する病気があるのではないかと心配なとき
－自分や家族が，生まれつきの病気をもっているが病名がはっきりしないとき
－家族が似たような病気になっているが，遺伝するものなのかどうか，あるいは
　その病気について詳しく知りたいとき

表２．遺伝子診療部への予約方法

神戸大学遺伝子診療への予約方法

①神戸大学医学部附属病院に電話をかける．
　電話078-382-5111（代表）
　　但し病院診察日の午前８時30分から
　　午後５時までの間

②交換が出たら
　内線5264番「地域医療推進室」につないでもらう．

③「地域医療推進室」につながったら
　「遺伝子診療部の予約」の旨を告げて診察日
　診療時間の予約をとる．

④来院
　予約された日に来院して，外来受付でカルテを作成してもらう．

切り取ってご利用下さい．

5．おわりに

遺伝子診療部は今まさに未熟児として出生しました．今後院内外の皆様の深い御理解と，暖かい御協力と，熱い情熱をもって大きく育てていただければと思います．そして，神戸大学遺伝子診療部が神戸大学附属病院での先端的医療の先導者であるのみならず，将来日本をリードする施設となることを願うものです．

今回は一部のものしか内容紹介できませんでしたが，今後の遺伝子診療部の動向ついては，随時ホームページで公開して行く予定です．インターネット上のhttp://gene.med.kobe-u.ac.jpを参照していただければ幸いです．